

男女
共同
参画
from
むさしの

生き方・いろいろ・ゆたかな人生

まなこ

キャリア教育って？



- キャリア教育とは、子どもの「生きる力」を育むためのもの…P2
- 子どもたちの将来を“水路づけ”していませんか……………P3
- 市内中学校の職場体験から……………P4
- 責任が格段に違ふと実感……………P6
- デジタル教科書で子どもたちの可能性を広げたい……………P7

キャリア教育って？

最近よく聞く「キャリア教育」という言葉。そのねらいや想いを実践するために、学校は何をどう取り組んでいるのでしょうか。子どもたちへ一番伝えたいことは――、また地域社会とのかかわりはどうなっているのでしょうか。教育者や学校現場、地域の協力者たち、そして実際にキャリア教育を受け、これからキャリアを築いていく子どもたちに話を聞きました。

キャリア教育とは、子どももの「生きる力」を育むためのもの

キャリア教育とは何か。武蔵野市教育委員会指導主事を担当（取材時）、現在は千代田区立神田一橋中学校副校長を務めている三浦壮次先生に、その定義やねらい、武蔵野市の取り組みについてお話していただきました。

将来自立した大人になってほしい

高い失業率やいわゆるフリーターと呼ばれる若年者の増加が、近年社会問題になっていきます。そこで国は、子どもたちが将来社会人として自立できるような教育を義務教育の段階から進めていくことにしました。一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を表現していく過程）を促す教育を「キャリア教育」として定義しました。

これまで子どもたちの将来への指導といえは、上級校への「進路指導」を指し

ていて、その際に偏差値に合わせて目標とする学校を決めるようなこともありま

した。しかしそのような考え方で決めた学校に進学しても、満足感を得られずに退学し、アルバイト生活を転々とするといった子どもがいました。また、これまでの「職場体験」は、自分が体験する職場について調べことに主眼が置かれてきました。しかし、現在は数日間の職場体験を通じ、勤務観や社会とのかかわりから自分がどう生きるか、どんな仕事に就くかを考える機会と位置づけられています。

時代は変化し、今や情報化社会です。これからの社会では、知識や技能を活用する力が求められます。こうした、今後生きていく上で必要な能力を、義

務教育段階から育もうとなったのがキャリア教育です。

キャリア教育で伸ばす4つの力

キャリア教育で育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」は、大きく4つの能力で構成されます。1つめが、人間関係形成・社会形成能力で、チームワークやコミュニケーション・スキルなどの能力です。この能力は、社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていくうえで基礎となります。2つめが自己理解・自己管理能力で、自分のよさや特性を理解し、自分に向いていることを前向きにとらえて行動する力です。この能力は、子

キャリア教育で伸ばす4つの力

- ① 人間関係形成・社会形成能力
- ② 自己理解・自己管理能力
- ③ 課題対応能力
- ④ キャリアプランニング能力



三浦壮次さん
前武蔵野市教育委員会指導主事
千代田区立神田一橋中学校副校長

武蔵野市での取り組み

以上がキャリア教育の概要となります。系統立ったキャリア教育が各学校で計画され、具体的な取り組みが行われています。課題としては、担当する先生の意識によって、子どもたちへの効果が変わってくるのがあげられます。武蔵野市はキャリア教育が進んでおり、

職場体験のほか、小中学校で行う「セカンドスクール」もキャリア教育の一環と位置づけています。また、児童・生徒の確かな学力の定着・向上を目的とした少人数指導を導入していますが、この時間も協同学習の時間を多く設定するなどキャリア教育を促しています。又友野その子

*セカンドスクール 学期中に自然に恵まれた場所に長期滞在し、普段の学級生活（ファーストスクール）で体験できないさまざまな体験活動や現地の方々との交流を通じて、豊かな情操や感性、知的好奇心、生活の自立、他者とかかわる力等を育む取り組み。昨年度、小・中学校全学年実施から20年の節目を迎え、グッドデザイン賞を受賞した。

どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力となります。そして3つめが課題対応能力です。たとえば算数の授業で、子どもが各自で問題を解いた後、グループやクラス全員で話し合い、よりよい解法を見つけないというようなプロセスを学校現場では取り入れています。この能力は、自分が行うべきことに意欲的に取り組むうえで必要であり、また従来

の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要なものです。最後に、4つめがキャリアプランニング能力で、自分が大人になったときにどう社会に貢献するか、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力です。この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となります。以上4つの能力はそれぞれが独立したものではありません、相互に関連しています。

子どもたちの将来を “水路づけ” していませんか



加藤千恵さん
京都光華女子大学
キャリア形成学部教授
女性キャリア開発研究センター長

子どもたちが幅広い選択肢から自身のキャリアを選べるよう、私たち大人にできることは何でしょう。キャリア教育やジェンダー学に詳しい加藤千恵先生にお話を伺いました。

私たちは自分で自分の進む道を選んでいると思いがちですが、性別によって「選ばれている」ことがあります。同じ能力や適性があったとしても、性別が違っていればその道を選んでいなかったかもしれない、これが「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）による水路づけ」です。

小さい子が「病気の人を助ける仕事がしたい」と言えば、男の子なら医師、女の子なら看護師を思い浮かべませんか。「飛行機に乗る仕事がしたい」と言えば、男の子ならパイロット、女の子ならCA（客室乗務員）というように。私たちは、その子が本当に医師に向いているのか、看護師に向いているのかということより、性別による思い込みから、自覚のないまま子どもたちの将来を誘導、つまり“水路づけ”してしまうのです。

私は小さい頃遊園地のゴーカートに乗るのが大好きでしたが、母に「また乗るの？ 女の子なのに？」と言われ、女の私がゴーカートに乗りたいがるのは好ましいことではないと感じました。もし私が男だったらもっと乗せてもらえたかもしれません。車のおもちゃや本を買ってもらって、運転や操縦の仕事を目指していたかもしれません。でも私はそうした道があることも思いつきませんでした。男に生まれていたら見えていた道が、女に生まれたために見えなかったということです。

デパートのおもちゃ売り場は男女で棚がはっきり分けられています。私は自分の娘たちに自由におもちゃを選ばせました。彼女たちは、人形やままごとセットも選びましたが、刀やピストル、ラジコンも選びました。男か女かではなく、自分が興味関心をもったおもちゃを選んだということでしょう。

子どもたちの可能性を拡げていくためにも、私たち大人が少しずつジェンダーのメガネをはずしていくことが大切です。思い込みから自由になる。その意識をもっていけば、性別にかかわらずその子の適性からキャリア（人生）を選ばせてあげることができると思います。

[取材・文 丸山麻帆]

市内中学校の職場体験から



貴重な職場体験から学ぶこと

百瀬 一郎さん 武蔵野市立第一中学校教諭
長谷川美穂さん 武蔵野市立第一中学校教諭

市内の中学校では、進路学習の一環として職場体験学習を意欲的に実施しています。昨年度、職場体験学習を担当した市立第一中学校の百瀬一郎先生と長谷川美穂先生に職場体験のねらいや生徒たちの様子を伺いました。



武蔵野中央幼稚園での職場体験

長谷川先生(以下長谷川)昨年9月8~10日に実施された職場体験の目的は、
①働くことの社会的な意義や役割を体験して学ぶ。
②実際の職場で働き、将来の職業選択に生かそう。
③職業生活を営む上で、大切なマナーやルールを知ろう。
④地域の人とのふれあい交流を深めよう。



スターバックス コーヒー アトレヴィ三鷹店

考え、生徒のアンケートを大事にしました。まず体験希望先職種アンケートを取り、傾向を見て新しい所も開拓しました。受け入れ先をたくさん用意し、102名全員が第1か第2希望になるようにしました。

百瀬先生(以下百瀬)今までは学校が事前に用意した事業所から選ぶ、というやり方だったのですが、今回は生徒が体験したい職業に合わせて努力しました。

長谷川 動物病院とカフェは希望が多かったので、頑張つて増やしました。幼稚園・保育園も。警察官志望でも、1人はラーメン屋で1人は保育園を選び、結局、警察署へ行ったのは1人でした。聞くと「警察官になりたいけど、あえて違う体験をしたかった」と答えました。なかには保育士になりたいから保育園、本が好きだから本屋、自然が好きだから農業を選ぶ子もいました。どの事業所も好意的に受け入れてくださいました。

百瀬 学校によるのですが、職場体験に限らず将来の職業について考えられるよう、1年の進路学習時に、さまざまな職業を知るとともにレディネス・テスト(適性検査)を行い、どんな職業に向いているのかを調べたり、自分の将来や働くことの意義について考えました。2年の事前学習では、うまくいかなかったり叱られながら、充実した職場体験するドキュメンタリーを見たり、ハローワークの方にマナー講習会をしていただき、あいさつやお辞儀の仕方、発声、礼儀や言葉づかい、電話のかけ方などを習いました。それらをふまえて「仕事に行く」という意識を高



絶対に無駄な時間は過ぎさせない「アインシュタイン」

毎年、市立第一中学校の生徒を受け入れている三鷹獣医科グループの白岩成志さんに職場体験について伺いました。

僕がここで働いて7年ですが、毎年、市内の学校だけでなく職場体験や獣医研修の依頼すべてを受け入れています。というのは、この病院には credo(credo)という基本理念があり、その中で「地域社会へ治療以外に貢献できるものは貢献していく」とうたっているからです。毎年6~11月の間に10校ほど1回2~3人ずつ受け入れています。うちの病院は現場と事務局に分かれていて、僕が生徒さんにつきっきりで対応できるので可能なのです。



三鷹獣医科グループでの職場体験

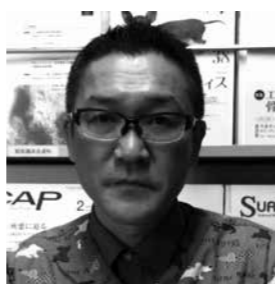
動物が来た時に獣医は、まず飼い主に話を聞き、触診、視診、聴診器で心臓の音を聞きます。傍らで実際に心音を聞かせたり、顕微鏡で染色した白血球や赤血球を見せたり、CT画像の説明すると、生徒さんの食いつきがすごいです。また、オペ器具の洗浄や滅菌作業をしたり、オペ室はガラス張りなので外からオペ

の見学もできます。

職場体験の打ち合わせに来るときに必ず伝えていっているのは「あいさつはしっかり」です。なかには獣医や医者志望の子もいて、彼らには検査とか実際の雰囲気や学んでもらいたい、という気持ちがあります。

体験後にお礼状をもらうと本当に嬉しいですね。こちらはあまり意識していませんが、手紙の中で「生き物を扱うのは真剣勝負だ」「手術によって、1時間2時間も担当の先生が集中を切らさずにやっていて、本当にすごいと思った」という感想もあり、貴重な体験だったと再認識します。

正直、いい職場体験を提供できるようにになったのはこの2、3年です。



白岩成志さん
三鷹獣医科グループ
前事務局長

それまで試行錯誤があり、人が足りなかった時には掃除だけというところもあったそうです。それに比べると今は徐々に良くなり、かなり体制が整ってきました。

僕が引き継いだ頃は、体験後に感想を聞くのがちょっと怖かったですが、今は「楽しかった」と言ってくれるので、すごく嬉しいですね。常に「無駄な時間は過ぎさせない」「将来この体験を思い出すがあるかもしれない」と思い、続けています。

取材・文 杉田真奈美

動物病院で飼い主への対応を学んだ。私も病院へ行く時は不安になっているので、動物の病気を治すだけでなく、飼い主の心のケアも大切だと思った。

あいさつは簡単だと思っていたが、大勢の前で大きい声でするのは難しかった。接客のときに、誰にでも笑顔で仲良く話すのが普通にでき、すごいと思った。仕事は楽ではないが、その苦を乗り越えた後にいいことがあると知った。

保育士は子どもの世話だけでなく、一人ひとりの好みを把握し、おもちゃを作ったり、親へ報告など大切な仕事をしていることを知った。体験を通して、責任をもって働くこと、職場の仲間との助け合いの大切さを学んだ。

仕事の大変さや社会の厳しさを学んだ。「社会人として精一杯頑張らなくてはならない」と感じながら仕事をした。体験前は「仕事は自分の生活のためにする」と思っていたが「国を支える必要な行為」で、重労働だし、大人にしかできないと再認識した。

働いてみて、責任の重さについて考えるととてもよい機会になった。親への感謝の気持ちが強くなり、私達のまわりに物がたくさんあるのは親が働いてくれているおかげだと改めて実感。社会で生きる上でのマナーやルールについて深く知り、学ぶことができた。

生徒たちの感想

職場体験をした
第一中学校の生徒さんの
感想から一部抜粋しました

客という立場ではなく、お店側から見ることで新しい発見があった。待ち時間が短くスムーズに買えるのは、自分から仕事を見つけ行動しているからだとわかった。また、自分がミスしても助けてくださり、周りのことを気遣えるので、私もそういう人になれるよう日々の生活を送りたい。

仕事を的確に行うことも大切だが、相手の気持ちになって考え、最高のサービスを全力で行うことが大事だと気づいた。

マンガ編集の所へ行ったが、自分のイメージと違い、全員が明るく楽しそうにやっていた。すごく地味で単純作業の繰り返しだけど、自分のやりたいことをやっていたので、自分も将来やりたいことをしたいと思った。

書店でふだん何気なく買っているものでも、多くの人がかかわり、たくさんの方の工夫がしてあることを実感。また仕事をしている大人を近くで見て、好きな仕事を熱心に働き、かっこいいと思った。



書店での職場体験

責任が格段に違つと実感

武蔵境の街の情報誌として親しまれている『iisakai』。その企画・編集から配布まですべてをボランティアの学生たちが行っている。『Sports』の制作を通して、彼らは何を学び、どんなことを感じているのか。石井健太さん、岡本夢紬さんに聞きました。

『iisakai』の制作にたずさわろうと思っ
たきっかけは何ですか

石井 大学の先輩から誘ってもらい、編集経験は全くなかったのですが、面白そ

うだなと思い参加しました。
岡本 私もバイト先の先輩に声をかけてもらい、以前から編集の仕事に興味があったので引き受けました。これまで、武蔵境には縁がなかったのですが、参加する前に武蔵境の街を歩いてみました。



石井健太さん
亜細亜大学3年生
『iisakai』
16号を担当

実際にやってみて、どんなことを感じていますか

石井 すべてが新鮮でキャリアアップにつながったと思います。まず、名刺の渡し方から教えてもらいました。企画、取材のアポ取り、インタビュも全て自分でやります。インタビューでは、初対面の人からどうやったら話をうまく引き出せるか、自分なりに考え臨みました。また、レイアウトでは吹き出しを入れたり、キャッチコピーで読者の目を引き、そこから本文に興味を持ってもらえるように工夫しました。



岡本夢紬さん
明治大学3年生
『iisakai』
17号を担当



岡本 私はまだ始めて3週間ほど（取材時）ですが、今、ページ構成、取材先のピックアップ、簡単なラフ作りをしています。雑誌をたくさん読み、誌面作りについて、こんな感じなんだと自分ではわかった

デジタル教科書で子どもたちの可能性を広げたい

教育ITソリューションという分野で活躍を期待されている日野綾香さんに、ご自身のキャリアを形成する上で大切にしてきたことを伺いました。

子どもの頃から理数系に興味があり、高校も理系コースを選択しました。私の学年には理系の女子も半数近くいましたし、当時は「リケジョ」という言葉もなく、自分が特別という感覚はありませんでした。

就職を見すえ、大学では情報理学を専攻しました。数学の授業で習った理論的なことを情報系のプログラム作成に活かすことができ、おもしろかったです。

大学卒業後は、「情報分野をもっと広く応用できるように」との教授の勧めで、外部の大学院に進学し、*パーチャルリアリティ研究室に所属しました。パーチャルリアリティというのは、いろいろな分野・特性の人が集まる複合的な分野なので、さまざまな専攻の学生がいて刺激を受けました。そして「国際学生対抗パーチャルリアリティコンテスト」に出場し、私たちのチームが120企画で総合2位という成績をおさめることができたのです。その経験によって、やりたいことがはっきりしてきたので、就職活動においても「研究室で学んだことを活かしてモノを作る側にまわりたい」ということを大切にしました。

メーカーやIT関係もまわりました。が、ニーズに合わせてプログラムを作成



日野綾香さん
東京女子大学現代教養学部数理学科卒。東京工業大学大学院（知能システム科学専攻）でパーチャルリアリティの研究を行い、今春より教科書会社でデジタル教科書の企画開発に携わる

する仕事は、自分が考えていた「モノを作る」ことは少し違っていました。悩んだ末に思い浮かんだのは、パーチャルと対極な本の世界でした。

調べてみると出版界も書籍のデジタル化が進んでいることがわかり、今の会社に決めました。理系の大学院卒で出版社というと驚かれますが、新しい分野で自分が学んだことを活かせますし、理系と文系をコネク特できるという面もおもしろいです。

理科の実験を動画で再現できるものや、現在地の星空をアプリで見られるようなものを開発できたらと考えています。そういったもので子どもたちが科学を身近に感じ、可能性を広げてくれたら嬉しいですね。

就職活動はとても大変でしたが、せっかくやりたいことを見つけたので、できるだけ長く働き続けたいです。

「取材 丸山麻帆／文イラスト 藤田和香子」
*パーチャルリアリティ コンピュータによって作り出された仮想空間を、現実であるかのように知覚させる技術

『iisakai』編集長の武政さんに聞きました

たけまさ りょうと
武政涼斗さん
『iisakai』編集長
株式会社ベルアンドノット
ディレクター



『iisakai』1冊の制作期間は2ヵ月です。その限られた時間内で、社会人の仕事としてのスピード、着眼の仕方、構成、プレゼンテーションなどさまざまなビジネスシーンを実感、体験し、自身のキャリア形成に役立ててほしいと思っています。いわば、リアルなインターンシップです。学生の参加目的は、スキルアップ、編集のノウハウを知りたい、やりたいことを探したい、など千差万別ですが、『iisakai』“卒業”時にはひとつ共通して言えることがあります。それは「自信」です。みんなすごく自信にあふれた話し方や表情になっているのです。そして、その瞬間に立ち会えることは、私にとっても大きな喜びです。

マネジメント面などで活かしたいですし、就職してからもきつと役に立つと思っています。将来のことはまだ明確ではないので、できるだけ多くのことを経験したいと思いますが、『Sports』のおかげで出版業も考えてみようかなという思いもあります。

『iisakai』での経験により、今後の自分を考える上で何か変化や影響がありましたか

石井 来年就職活動をしますが、これまで「仕事をやる」ということに曖昧なイメージしかなかったのですが、今回それを実感できたような気がします。実は、制作期間中メンバーとの人間関係で悩むことがあり、正直嫌だなと思ったこともありましたが、振り返ればいい経験になったと思っています。今年から大学の所属団体に就職につくので、この経験を

マネジメント面などで活かしたいですし、就職してからもきつと役に立つと思っています。将来のことはまだ明確ではないので、できるだけ多くのことを経験したいと思いますが、『Sports』のおかげで出版業も考えてみようかなという思いもあります。

「取材 友野その子／取材・文 矢後麻美」
『iisakai』2010年8月創刊の武蔵境の街の魅力を紹介するフリーペーパー。年4回、各号1万部を発行している。日本フリーペーパー大賞「地域密着部門優秀賞」(2013年)、「コミュニティ部門賞」(2014年)、「武蔵野プレイス」武蔵境駅、飲食店、病院、大学などで配布



「まなこ」サポーターの200字コラム

キャリア教育について思うこと

気長に、生き方デザイン 市川優花 ●吉祥寺北町



中高生の頃、思春期真っただ中の自分と違い、大人は迷いなく毎日を生きているのかなあと思っていました。結婚・出産など、環境や考え方に変化が訪れるにしろ、30、40代をどう生きるか思い悩むこともある。「どう生きたいか」。個人の思いと、家庭・仕事・地域の中で社会的役割を担う自分のバランス。大人はもっと生きやすいのかなと思っていた、昔の自分にひと言。生き方を描くのは一生かけて。あれこれ決めつけないで、気長にいこう！

相手を思い共感すること 入江規夫 ●関前



キャリア教育に必要なことは、共感とわくわくすることだと思います。自分らしくあることを理解してもらえらることで自信になり、自分を表現できるようになります。子どもの視点に立ち、一緒に遊び、一緒に学び、一緒に喜び、寄り添うことで共感が生まれます。家族など身近な存在に共感してもらうことが、子どもにとって大きな喜びになり、自分を信じる力になると思います。

キャリア教育の帆 江口寛美 ●吉祥寺本町



昔は祖父母も同居する家庭が多かった。親がいずれ老いることも体験から想像可能だった。親が祖父母を支える姿から役割分担も学べた。最近では、両親不睦にも珍しくない時代になった。電車での配の方が目の前にも自分の子どもを座らせたままの母親。外食中にもゲーム、親は携帯電話に夢中。キャリア教育とは？ 学校、社会に問う前に、まずは私たち大人が子どもたちのモデルになる努力をすべきだと思つた。

もしDVにあっているなら… 相談窓口をご案内します (相談は無料です)

●警視庁総合相談センター 03-3501-0110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 8:30～17:15)

【配偶者暴力相談支援センター】

- 東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455 (年末年始を除く毎日 9:00～21:00)
- 東京ウィメンズプラザ (男性のための悩み相談) 03-3400-5313 (祝日・年末年始を除く月・水曜 17:00～20:00)
- 東京都女性相談センター多摩支所 042-522-4232 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～16:00)
- 東京都女性相談センター 03-5261-3110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～20:00)



夜間・緊急の場合

- 警察 (事件発生時) 110 番
- 東京都女性相談センター 03-5261-3911 (夜間・休日のみ)
- 武蔵野市役所 女性総合相談 専門の女性相談員が対応します。予約制 第2木 第4火(相談時間50分) 予約専用 0422-60-1921
- 武蔵野市役所 ひとり親・女性相談 0422-60-1850 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～17:00)

『まなこ』は文字通り「まなこ」眼。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

活動補助金事業を紹介します

企画：講演会「ユング心理学から見たジェンダー～自分らしく生きるために」

日時：2月29日(月) 14:00～16:00

会場：クラフトハウスぱく

講師：早乙女紀代美(白百合女子大講師・ユング研究会相談室カウンセラー)

参加者：24名

主催：らっこの会

男性4人を含む20～80代と幅広い年齢層の市民に参加いただき、講師のパワフルで楽しいお話を伺いました。自分の生きづらさの原因をさぐることで、「親」や「女性」という役割、ジェンダーにとらわれず、女性も男性も自分らしく生きる力＝自己肯定感を育むヒントをいただきました。他市で講師の講演会を開催している団体の参加もあり、情報交換をすることもできました。

■入江規夫(30代)関前在住
一人ひとりが地域で生き生きと暮らすこと、地域とのかかわり、男女共同参画の視点から学びたいと思います。

■江口寛美(40代)吉祥寺本町在住
40歳の出産。子どもの「かあちゃん」の声を宝物として、笑顔で子どもに振り向き暮らしを大切にしたいです。

■岡田礼子(60代)吉祥寺南町在住
男女共同参画、堅く難しい響きですが具体的なテーマは、身近なことから。さびついた頭を活性化させるきっかけが期待大です。

■神谷奈央子(30代)吉祥寺南町在住
出産・育児を通して男女が共に協力することの大切さを痛感しました。微力ながら自身の経験を活かすことができたら嬉しいですね！

平成28年度『まなこ』サポーター会議
サポーターを紹介します！ (五十音順)

■市川優花(30代)吉祥寺北町在住
子育て一年生。仕事を含め生活に多くの変化が。男女共同参画のさまざまな取り組みを学び、あらためて社会とのかかわり方を見つめたいです。

■一人ひとりが地域で生き生きと暮らすこと、地域とのかかわり、男女共同参画の視点から学びたいと思います。

■江口寛美(40代)吉祥寺本町在住

40歳の出産。子どもの「かあちゃん」の声を宝物として、笑顔で子どもに振り向き暮らしを大切にしたいです。

■岡田礼子(60代)吉祥寺南町在住

男女共同参画、堅く難しい響きですが具体的なテーマは、身近なことから。さびついた頭を活性化させるきっかけが期待大です。

■神谷奈央子(30代)吉祥寺南町在住

出産・育児を通して男女が共に協力することの大切さを痛感しました。微力ながら自身の経験を活かすことができたら嬉しいですね！

ご存知ですか？

「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、武蔵野市の男女共同参画推進の拠点として、性別等にかかわらず誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指し活動しています。男女共同参画に関する情報の提供、各種講座の開催などを行っています。また、センターの会議室やフリースペースでは登録団体の方々をはじめ広く市民の方々の自主学習会や交流などが行われています。どなたでもご利用できますのでお気軽にお越しください。

<これからのセンター主催講座予定>

10月1日(土) 「男女共同参画をめぐる地域でのセンターの役割(仮)」

10月29日(土) 「最近「男」もつらいのはなぜなのか(仮)」

11月12日(土)・19日(土) モラハラ・DV連続講座～子どもへの影響(仮)

11月20日(日) 「シネマプレイスwithヒューマン(仮)」(プレイスとの共催)

11月26日(土) ディズニースタジオで学ぶメディアリテラシー

<センター利用案内>

◆住所：武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2F

◆TEL/FAX：0422-37-3410

◆E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp

◆開館時間：月～土曜日 9:30～17:00

◆休館日：日曜日・祝日・年末年始

▶ 講座の詳細・お申し込みは市報やセンターのホームページをご覧ください！
<http://www.mhnc.jp/>

INFORMATION

市民活動推進課 男女共同参画担当から

●男女共同参画推進団体活動補助金について

男女共同参画推進団体が男女共同参画社会の実現に向けて行った研修・調査・研究等の活動に対し、活動の活性化と市の施策の推進を目的として、経費の一部を補助しています。

補助金の交付は、1団体各年度1回、上限5万円です。申請団体が多数の際や審査結果により、交付されない場合もあります。手続きは市民活動推進課へお問い合わせください。

平成27年度7団体実施 (①団体名②内容)

*①HBB(Happy and Boon Buddy) ②講演会

「社会的養護について学ぶ～地域社会でできること～」

*①武蔵野プラシヨフ女性問題研究会 ②シンポジウム

「皆は同じ、でもその実違う」

*①NPO 法人保育サービスひまわりママ内ひまわりママ ②講座&ワークショップ「きっとあるあなたの楽しい未来図～地域の中で支え合って～」

*①共同参画むさしの ②上映&監督トーク「百合祭」

*①ゆう3 ②講座「パパ&ママとおもちゃをつかってあそぼう！ Part2」

*①らっこの会 ②講座「ユング心理学から見たジェンダー～自分らしく生きるために」

*①日本の歴史と教育を考える会 ②講演会「育メン・育ジイの果たす役割について」

◎平成28年度の男女共同参画推進団体登録は22団体です。(平成28年6月1日現在)

●男女共同参画フォーラム2016を実施しました

・記念講演会「子どもの貧困を考える」(6/21)

・クラシック音楽とジェンダー (6/18)

・オトコの地域活躍 in むさしの (6/19)

・データを職場環境改善のチカラに in 東京 2016 (6/19)

・ネパール女性の活躍に見る震災復興と自立への道 (6/20)

・やりたいことを実現させるためのコミュニケーション術☆(6/24)

・親の知らない、中高生のリアルJKビジネスの危険 (6/24)

・あなたの「からだ」の声、聞こえていますか(6/25)

・ネファリアス～売られる少女たちの叫び～ (6/25)

・LGBTの子どもの過ごしやすい地域について考える(6/25)

・パネル展示(武蔵野プレイス:6/18～27、市役所:6/28～7/4)

※詳細レポートは「そよ風」54号をご覧ください！

【お詫びと訂正】『まなこ』96号(平成28年3月発行)5ページ図「就学援助についての問合せ」に誤りがありました。お詫びして訂正します。
誤) 教育支援センター TEL 0422-60-0899
正) 教育支援センター TEL 0422-60-1899

市民部市民活動推進課 男女共同参画担当

〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1869 FAX 0422-51-2000

E-mail SEC-KATSUDOU@city.musashino.lg.jp

URL <http://www.city.musashino.lg.jp>

* STAFF *

サポーター 市川優花 入江則夫 江口寛美

岡田礼子 神谷奈央子

企画取材編集 杉田真奈美 友野その子 藤田和香子

丸山麻帆 矢後麻美 市男女共同参画担当職員

編集協力 栗原 毅

表紙デザイン ふじわりわ

レイアウト 上田ジュンコ

印刷 シンソー印刷株式会社

* * * * * * * * * * * * * * * *

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約450か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画担当まで。

◎ 縦じり返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は平成28年12月初旬発行予定です。

「キャリア教育」とは、大人がレールを敷くのではなく、子どもたちの自由と自主性を尊重した上でなりたつことを学びました。この視点を忘れずに子ども達を見守っていきたくです。(丸山麻帆)

何でも自分にぴったりの合つものを探るのは難しい。ましてや、一生の仕事となると簡単にはいかない。子どもには、若いうちから興味の有無にかかわらず、いろいろなことを体験しながら、じっくり自分の将来を考えてほしいと思う。その過程も素晴らしい、人生のキャリアのひとつになるはずだから。(矢後麻美)

Editors' Notes 編集 * 後記

今回は、学校から全面的にご協力いただき、生徒のリアルな感想も聞け、感謝感謝です。大人でも職場体験ができるなら、ぜひやってみよう。(杉田真奈美)

三浦先生取材後、小1の娘とキッズZアへ。どの子ども目も輝かせて仕事に取り組んでいたのが印象的でした。働くのが楽しい！というそのままの気持ちで皆育つてほしい。(友野その子)

編集委員になったことは、私にとって新たな学びの機会。学び続ける姿を子どもたちに見せることは「勉強しろ」というより効果的……と信じた。

(藤田和香子)